

タイトル…『ファニーたい焼きトム56
山菜の天ぷら』

第一幕：奇想天外の新作発表

シーン：たい焼きトム開店準備

（店内、早朝。たい焼き器の音が響く。
トムはハイテンションで歌いながら準備
中。店内には和洋折衷の奇抜なポスター
が貼られ、店の隅には「過去の奇抜たい
焼きランキング」のボードが立てかけら
れている。）

トム：「おはよう、ジャパニーズたい焼
きワールド！今日も俺のファニーたい焼
きで世界を変えるぞー！」（クルッと回
ってたい焼き器をパカッと開ける）

魚住：「おはようございます、トムさん…。
で、今日の新作は…って、何ですかこ

れ！？葉っぱ！？緑色の何か突き出てるんですけど！！」

トム：「Hahaha！見よ、この黄金色に輝くサクサクの衣！『山菜の天ぷらたい焼き』、誕生だ！」（どーんと差し出す）

魚住：「ちょっと待ってくださいよ、トムさん！普通たい焼きって、こう：アンコとか、クリームとか、スイーツ系が主流ですよね！？なんで天ぷらなんですか！？」

トム：「Why not！？たい焼きは自由の象徴！甘いも辛いも、モチモチもサクサクも、一つになれる素晴らしい食べ物だろう！？」

魚住：「いや、それはまあ、そうかもしれないけど…」

（トム、たい焼き器に生地を流し込み、カリッカリに揚がった山菜天ぷらを慎重に置く。香ばしいゴマ油と、山菜の爽やかな香りが漂う。）

トム：「嗅いでみる、魚住！春の息吹と和の香りが融合した、この神秘的なアロマを！」

魚住：「うわっ…確かに、天ぷらの香ばしさが生地の甘さと混じって…妙に食欲をそそる…」

トム：「食べる前から美味しい、それが真の飯テロたい焼き！」

魚住：「（ため息）まあ、やるしかないですね…」

第二幕：試食と波乱の開始

シーン②：お客の飯テロ

（4人の客が登場、それぞれの反応を見せる）

客▶（サラリーマン）：「疲れた仕事帰りに：これは一体？」（一口食べる）

客▶：「ザクッ！じゅわっ！うわっ、天ぶらの香ばしさが口いっぱいに広がる：！なのに、たい焼きの生地のもちもち感が合わさって、甘じょっぱさの波が押し寄せてくる！」

（隣の客B、学生風の青年が恐る恐る口に運ぶ）

客B（学生）：「んん：？あ、あれ：？
なんだこの後引く美味さ：！止まらな
い：！」（無意識にもう一口かぶりつく）

客C（グルメ系 YouTuber）：「うわあ…
これ絶対バズる味だよ！」（スマホで撮影しながら、細かく解説）

客○：「サクサクの衣にジュワツと広がる山菜の旨味！これぞ新感覚のたい焼き！コメント欄、絶対に荒れるぞ：！」

（最後の客○、おばあちゃんが慎重に手を伸ばす）

客○（おばあちゃん）：「こんな変わったたい焼き、初めてじゃわ：」（一口）

（目を見開き、手が震える）

客○：「ああ：これは：懐かしい味がする：山菜の香り：まるで山の春の匂いじゃ：」

（感動して涙ぐむおばあちゃんを見て、魚住が驚く）

魚住：「ま、まさかの涙！？これ、そんなに感動する味なんですか！？」

第三幕：有名登山家が来店

（店に一人の屈強な男が入ってくる。その名も有名登山家・神崎岳人）

神崎岳人：「ほう：山菜の天ぷらたい焼きとな？」

魚住：「あ、あなたは：！テレビでよく見る登山家の神崎岳人さん！？」

（神崎、無言でたい焼きを掴み、勢いよくかぶりつく）

神崎岳人：「……！！」

（数秒の沈黙のあと、天を仰ぎ叫ぶ）

神崎岳人：「う……うまああああい！！！」

山の恵みがたい焼きの中に詰め込まれている！！これはまるで：大自然の懐に抱かれているかのような安心感：！」

（魚住が啞然とする）

魚住：「すごい……ここまでの大絶賛……」

（トムがニヤリと笑い、奥からめんつゆを取り出す）

トム：「岳人さん、これを試してみてください」

（めんつゆの中にたい焼きをじゅわっと浸す。つゆの香りが立ち込める）

神崎岳人：「…これは！？」（一口食べる）

（目を見開き、全身が震える）

神崎岳人：「うおおおおお！最ッッッ

高だあああ！！」

（店内が拍手喝采に包まれる）

第四幕：富士山での出張販売

（神崎岳人、店内の片隅で腕を組みながらしみじみとつぶやく）

神崎岳人：「このたい焼き：登山客にも食べさせたいな：」

トム：「ホワット！？登山客！？」

神崎岳人：「富士山の登山客たちは、長い道のりを歩く。腹が減る。しかし、食べるのは携帯食やカップ麺ばかり：こんなにもうまいものがあつたら、力が湧くだろうに：」

（トム、パチンと指を鳴らす）

トム：「オーケー！それなら俺たちが行くしかないだろ！」

（場面転換：富士山の五合目。トムと魚住が屋台を設置。看板には大きく『山菜天ぷらたい焼き 出張販売！登山のエネルギー補給に！』と書かれている）

シーン：登山客のリアクション

（次々と登山客が通りかかる。最初にや
ってきたのは40代のハイカー）

客▶（ハイカー）：「なんだこれは！？
富士山でたい焼き！？」（一口食べる）

客▶：「な、なんだこれは！？うまい…！
カリッとした天ぶらの衣が、ほんのり甘
い生地に包まれて…うおお、口の中が春
の山だ…！」

（次にやってきたのは外国人観光客）

客♫（外国人）：「オー！タイヤキ？ジ
ャパニーズフード？オレ、タベル！」（パ
クリと一口）

（突然、驚きの表情を浮かべる）

客♫：「ホワッ！？クリスピー！スイ
ート！アンド…サボリー！？な、なんだ
これは！？サクサクとモチモチが共存し

ている！？ジャパニーズ・フード・マジック！！」

（魚住、苦笑しながら頷く）

魚住：「まあ、確かに不思議なうまさですよね……」

（そこへ疲れ果てた若い登山者がやってくる）

客○（若い登山者）：「はあ……はあ……もうダメだ……エネルギーが……」

トム：「ヘイ！そんな時こそ、この山菜天ぷらたい焼きを試すべきだ！」

（若い登山者、力なくたい焼きを受け取ってかじる）

客○：「……！？」

（突然、目がキラキラ輝き出す）

客○：「うわああ！うめええ！力が湧いてくるううう！」（全身がエネルギーに満ち溢れたように立ち上がる）

（そこへ、さらに登山ガイドがやってくる）

客㊦（登山ガイド）：「おや、珍しいです。たい焼きの屋台とは：どれ、一つ…」

（登山ガイド、ゆっくりかじる）

（数秒の沈黙の後、目を閉じる。そして静かに言う）

客㊦：「…これは、まさに：山そのものの味だ…」

（周囲の登山客がざわつく）

客 D：「春の息吹、清流の冷たさ、そして深い山の香り：まるで、食べる森林浴：！」

（トムと魚住、満足げに笑う）

トム：「フッフ：フアニーたい焼きの旅は、まだまだ続くぜ！」

（場面転換。富士山の風景をバックに、登山客たちがたい焼きを頬張る姿が映し出される）

（SNSの投稿が流れる）

「#富士山でたい焼き #意外とアリ #山菜の味が深い #天ぷらのカリカリが最高」

第五幕：大成功と新たな挑戦

（場面転換：トムと魚住、店内で新聞を広げている）

魚住：「店長、大変です！ニュースになってます！」

（新聞の見出し：「富士山五合目、謎のたい焼きブーム！しかし高山病者続出！」）

トム：「な、なんだって！？美味しすぎて、高山病！？」

（テレビ画面には登山客のインタビュー映像が流れる）

登山客▶：「もう美味しくて美味しくて、つい食べ過ぎちゃって：気がついたら頭がクラクラして：」

登山客♂：「最初是一個だけのつもりだったのに、つい三つ四つ食べちゃって：そのまま登り続けたら、ヤバかったっす！」

登山ガイド：「食べた後、元気になりすぎて一気に登ろうとした結果、高山病になる人が続出しました：たい焼きの食べすぎには要注意ですね。」

（トム、腕を組んで深くうなづく）

トム：「：美味しさは時に罪だな。」

（魚住、呆れた表情でため息をつく）

魚住：「いや、普通そんなことにはならないですから：」

（しかし、その横でSNSには新たな投稿が続々とアップされている）

「#やっぱり富士山でたい焼き #でも食べすぎ注意 #高山病も怖いけど美味しすぎる #また食べたい」

（トム、再び笑顔になる）

トム：「フッフ：ならば次は、さらに高地での挑戦だ！」

魚住：「は！？ちょ、ちょっと待ってください！」

（場面転換：ヒマラヤのベースキャンプ）

（氷点下の風が吹きすさぶなか、トムが満面の笑みでたい焼きを焼いている。魚住は完全防寒装備で震えている）

魚住：「いや、無理無理無理無理！！こんなところでたい焼き売るなんて……！！！」

トム：「ノープロブレム！標高5000メートルのエネルギー食、それが俺たちの『山菜天ぶらたい焼き』だ！」

（そこへ、ヒマラヤ登山を控えた登山家たちが興味深げに近づく）

登山客B（欧米登山家）：「なんだこの食べ物は何？」

登山客C（日本人登山家）：「たい焼き：！？ここで！？面白いな！」

（登山客たちが恐る恐るたい焼きをかじる）

登山客D：「ホット：クラランチ：モチモチ：マジック！！」

登山客E：「う、うまい！！なんだこのバランス感覚！！外はサクッ、中はふわっ、そして天ぶらのサクサク：！！これはエネルギー補給どころか、感動の一品だ！！」

（そこへ、登山ガイドが走ってくる）

登山ガイドF：「おい、このたい焼きを食べた登山客たちが、次々とエベレストに挑戦しようとしてるぞ！！」

魚住：「：絶対、また問題になりますよ
ね？」

（トム、キラリと笑いながら）

トム：「美味しさの前に、人間は無力な
のさ！」

（魚住、顔を覆ってガツクリとしゃがみ
込む）